※文字の大きさは Meiryo UI ／12 ポイント以上とし、行間・文字間、上下左右の余白は変更しないでください。
※具体的に示したい図、写真、表、グラフなどは、（写真１）（表１）などと文中に記載し、右ページに（写真１）（表１）などと表記の上、貼り付けてください。
※文章と図等を組み合わせながら作成することも可能です。各項目の枠の上下幅は変更可能です。
※いずれの場合も、必ずＡ３片面１枚におさまるように作成してください。ファイルサイズは５MB 以下としてください。

※事務局記入欄
No. A-67

【様式２】

部門名：
カリキュラム・マネジメント実践部門

エントリー名： 沼津市立静浦小中一貫学校

活動名：
９年間の学びをつなぐ
小中一貫を学びでつなぐカリマネ

解決すべき課題：

施設一体型の小中一貫学校、地域との強い連携、３志部の生活（１～４年生、５～７年生、８～９年生）などの強みをいかしながら、子どもが学びをつないで考えを深めていく。そんな時間の積み重ねを有効的にする、９年間の学びのカリキュラム・マネジメントの在り方をさぐる。

目標・方針：

A　時間が限られる中で、小中一貫教育を支えるカリキュラム・マネジメントの時間を確保できるようにする。
B　カリキュラム・マネジメントの具体的な方法を職員で共有し、異動があっても継続・更新できるようにする。
C　９年間の学びをカリキュラム・マネジメントすることの重要性と必要性を職員で共有できるようにする。

活動内容：

A　時間割や授業の出入りの調整を行い、週 1 回（志部打ち合わせ）、月 1 回（志部カリマネ）、学期 1 回のカリキュラム・マネジメント（全体カリマネ）を行う。【図１】
B　カリキュラム・マネジメント構想図を作成し、それと連携した年間指導計画を 9 年分作成。こうして、目的がはっきりとしたカリキュラム・マネジメントの計画・実施・記録ができる基礎を固める。【図２】
C-1　3～９年生にわたる地域学習を「総合的な学習の時間」で系統的に行い、子どもの学びの姿を共有し、学年・教科の壁を越えて、小中の教師が共通の視点で子どもの姿を見取れるようにする。【写真１】
C-2 共通の視点で見取った子どもの姿を、自分が担当する教科や学年の授業へと研修を通して関連付けていき、思考の流れのある単元構想を行う。【図３】

活動の成果：

A　話し合いの時間が十分にあるとは言えないが、定期的に話し合う時間が確保されることで計画的にカリマネができる。（ＰＬＡＮ）
B「カリキュラム・マネジメントをしましょう。」と言われても何を話し合うべきなのかわかりにくいが、「今日は単元の内容で関連があるところをつなぐ、コンテンツベースの時間。」「この学年で付けたい力に関係する単元は、どの教科のどの場面にあるだろう。（コンピテンシーベース）」などと目的がはっきりすることで、計画的に短時間で行える。（ＰＬＡＮ＆ＤＯ）
C-1「総合的な学習の時間」で、「考える姿は、あんな姿なんだね。」「学習問題をつくる時は、こんな風に意見をつないでいくんだね。」などと教師が教科、校種に関係なく「子どもが主体的・対話的で深い学び」の具体的な姿を見ることで、どんな子どもを目指すのかが、共有できる。（ＤＯ＆ＣＨＥＣＫ）
C-2「総合的な学習の時間」で考えた単元のように、子どもの気持ちや思考をつなぐ授業を、自分の担当する教科でもいかしたいという意識が広がる。また、全教科で思考の流れや子どもの思いを重点とした単元構想（単元デザイン）を大切にし、自校の研修の軸のひとつとして深めていく。（ACTION）

アピールポイント（アイディアや工夫）：

○目的別カリキュラムマネジメントの実施。
○PDCA をまわすための、小中の職員が共通で考える視点を「総合的な学習の時間」で作り出す。
○「総合的な学習の時間」で 3 年生～９年生までの地域学習を行うので、子どもたちは地域を知り、肯定的に捉え、自信をもつようになる。そして、自己肯定感も上昇する。
○「総合的な学習の時間」で長期的な地域学習をすることで、職員、子ども、地域のつながりが強まる。